

白山市文化施設館報

白山ミュージアム



昭和27年（1952）吉野谷村立吉野小中学校

白山市立博物館 企画展

昭和のしゃん展

「昭和の学校」を開催

平成26年3月8日（土）

から5月6日（火・祝）まで

白山市立博物館において、企画展「昭和の写真展『昭和の学校』」を開催しています。

市内の昭和時代の校舎は、統合や建て替えが進み、現存しているものは少なくなってきました。

年月が経過する中で、校舎の写真も、今は貴重な資料となっています。

校舎は、ここで学んだ人々にとつて、たくさんの思い出に満ちた場所です。

その少年少女時代の記憶をよみがえらせてくれる、懐かしい小中学校の写真100点余りを展示しました。

（関連記事 11ページ）

contents

■ 白山市立博物館 企画展昭和のしゃん展「昭和の学校」	1
■ コラム 金劔宮の奉納俳額に見る鶴来俳壇	2
■ コラム 手取川のはね橋	4
■ 白山市立博物館 平成25年度イベント	5
■ 白山市立博物館 平成25年度企画展	8
■ 平成26年度 展示・行事予定等	12

No. 8
平成26年3月31日

金劔宮の奉納俳額に見る鶴来俳壇

金劔宮の奉納俳額

白山市鶴来地区に鎮座する金劔宮には10数点もの俳額が奉納されています。その大半は江戸時代末期から明治時代にかけてのもので、これは同時代に鶴来出身の儒学者金子鶴村らが中心となって活動した文化結社「鶴来社中」の活動時期と概ね一致しています。

白山比咩神社をはじめとする近隣の社寺と比較しても、金劔宮に奉納されている鶴来俳人の俳額数は群を抜いており、その理由は明らかではありませんが、当時の金劔宮と鶴来俳人の繋がりが非常に強かったことが窺われます。

中でも白山市指定文化財に指定されている、元禄二年奉納俳額と寛延元年奉納俳額は、石川県における俳諧史を知る上で重要な歴史史料といえます。

元禄二年奉納俳額

元禄二年八月（1689年8月）の年期が確認できるこの俳額は、現在制作年号が確認できる俳額の中では国内最古と考えられます。（続いて大阪府豊中市に元禄16年の俳額が確認されています。）

松尾芭蕉が有名な「奥のほそ道」の途上、金沢に足を運んだのが元禄2年7月であることから、ほぼ同時期に金劔宮に奉納されたことがわかります。慮水、梅霏、疎松、柳江、李圃、雨柳、何之、雨鹿の8名が鶴来俳人として名を連ねています。

横幅約70センチ、縦幅約40センチの古額は、300年以上もの長きに渡り風雪に晒された結果、墨書は色褪せてしまい、僅かにその墨跡を遺しています。

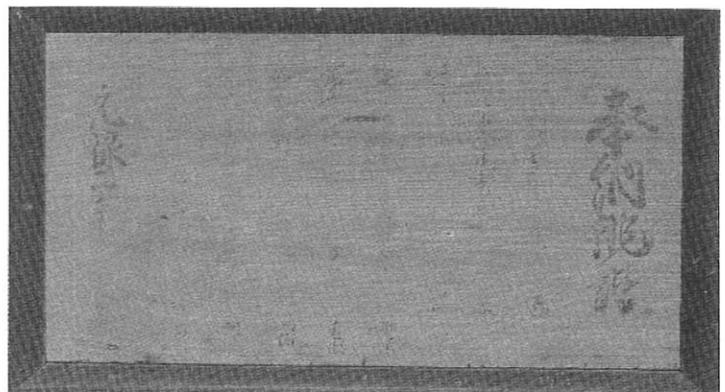
寛延元年奉納俳額

寛延元年戊辰八月廿日

（1748年8月20日）の年期が確認できるこの俳額は、元禄俳額とは異なり鶴来内外の俳人21名が名を連ね、松任の千代女（この時46歳）をはじめ、伊勢の梅路や珈調、金沢の女流俳人坂尻屋珈涼らの句が確認できます。また執事として、千代女の師である本吉（美川）の北潟屋大睡、願主に当時鶴来の有力町人であった直海屋嵐市の名も見えます。

千代女は「またをもち 寒さは置す 竹の雪」の句を俳額に寄せています。

総数21名のうち、鶴来俳人が14名、鶴来域外の俳人が7名（内伊勢俳人2名）、女流俳人は全体で4名（千代女、珈涼、楚為、閑）を数えます。人数や構成を見ても、横幅約165センチ、縦幅約50センチの大きさを見ても、当時としてはかなり大規模な俳額奉納だった



元禄奉納俳額

たのではないかと思われます。

全国的に見て、現在残っている江戸時代の奉納俳額は、殆どが江戸時代後期末期のもので、その理由は様々ですが、まず考えられることは、俳額が風雪などに長期間晒されたことで状態が損なわれ、残らなかったことが考えられます。故に金劔宮に江戸時代中期の俳額が2点も現存していること

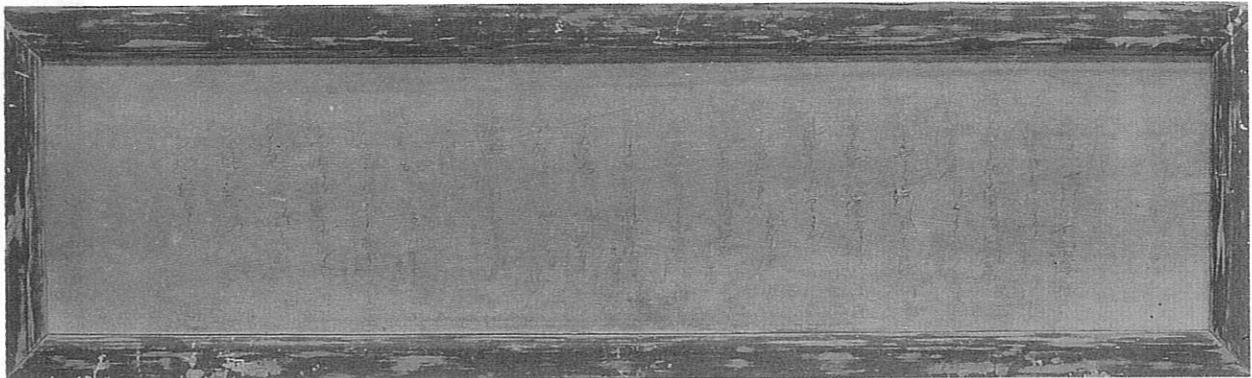
は、白山市の俳句文化の始まりを
考える上で大変意義深いものであ
り、また地方俳壇史を考察する上
でも大変重要な史料といえます。

金劔宮奉納俳額については、約
300年という長い時間を経たこ
とで、墨書の部分が退色・変色部
分が生じています。過去に行われ
た調査により、俳額に記されてい
る文言については現在解読されて
はいますが、実際には肉眼での判
読が既に困難な状態です。

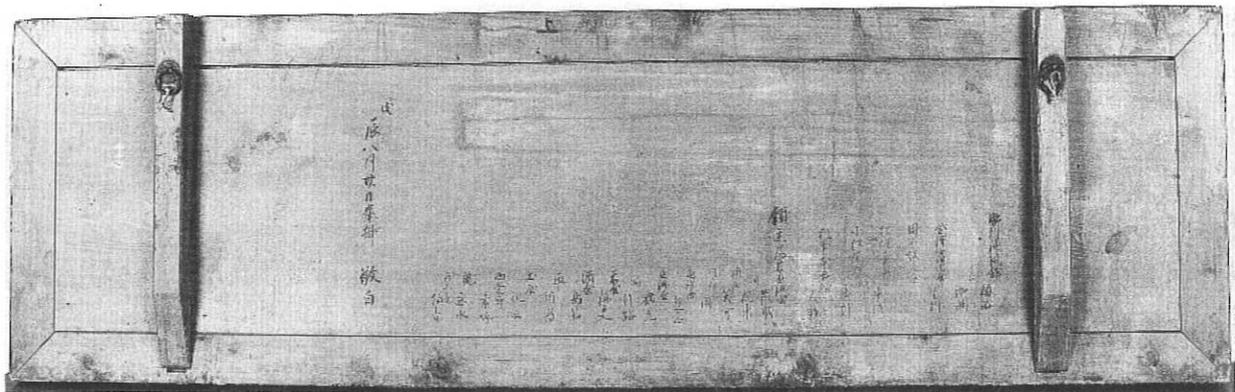
そこで金沢学院大学の中村晋
也准教授の協力を得て、俳額の肉
眼で判読困難な部分を視覚的に明
らかにするために、赤外線機器を
使った科学的調査を実施しまし
た。

この調査結果を画像として残
し、過去に解読された結果と合わ
せることで、より正確な形で後世
に伝えていくことが可能となりま
す。

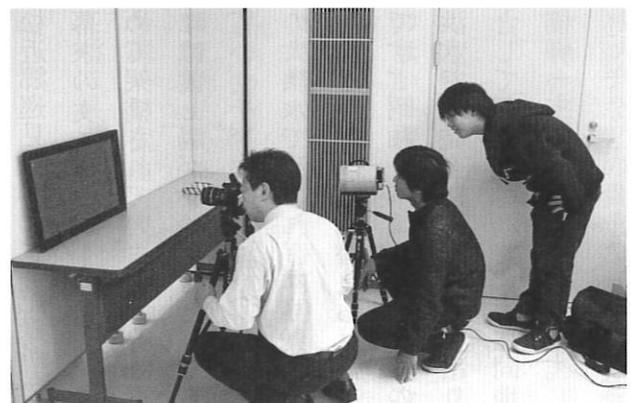
(文責 山下)



寛延奉納俳額（表面）



寛延奉納俳額（裏面）



俳額を調査する中村准教授

○参考文献

- 「鶴来の文化財」
- 平成5年 鶴来町教育委員会
- 「鶴来俳諧撰集」
- 昭和56年 鶴来町教育委員会
- 「鶴来町史 歴史編―近世・近
代―」
- 平成9年 鶴来町教育委員会
- 「加賀の千代その生涯と芸術」
- 平成23年 白山市立千代女の里
俳句館
- ほか

手取川のはね橋

展示調査の過程で、川北町立中島小学校が保有している明治42年9月の『川北東尋常高等小學校手取川寫真帖』を見せていただきその画像を採録しました。同帖は明治42年10月の東宮（大正天皇）行啓直前に撮影されたもので、吉野付近から美川鉄橋までの手取川の発電所や橋・堤防などが収録されています。建築の研究者とも相談したところ、「蝙蝠橋」と記載された「はね橋」の写真が問題となりました。蝙蝠橋は黄門橋の別名ですが、場所も川幅も違うとの指摘を受け調査を行った結果、広瀬橋の注記誤りであることが判明しました。日本独特の木製橋である「はね橋」については、山梨県の猿橋、山口県の錦帯橋、猿橋からの技術導入のあった富山県黒部川の愛本橋が高名です。

藩政期の手取川の橋について

は、中宮の埴橋・手杵橋と市橋（一ノ橋）・木滑の濁澄橋・瀬波川を渡る佐良埴橋・吉谷上吉野間の古橋（不老橋）・釜清水の黄門橋（蝙蝠橋）・広瀬の広瀬橋の少なくとも八橋が、諸史料・諸図を含め、埴橋（はねはし）となっています。はね橋は両岸から斜めに橋桁を架けて行き、上部の横板に繋げて組み上げるもので、より広い橋間を得られます。深い谷を有する手取峡谷では打って付けの架橋法だったと考えられます。

濁澄橋

濁澄橋は中世前期に成立した『白山之記』にその名があり、加賀志徴の記す正保4年（1647）「加越能三州道程記」にははね橋として記されています。

また天領が設定された寛文8年



広瀬橋 明治42年初秋(中島小学校手取川記念帖より)

麗な現景図に著したもので、その中に見事なはね橋の姿の「高門橋」が描かれています。しかし、『宝永誌』の一向一揆の時焼失してその橋杭が残るのみとの記述などから、藩政前期には場所が違うか、なかったと推定されています。

広瀬橋

広瀬橋は「右ニ広瀬ノ橋アリ此橋文久三年春始テ掛ル長二十二間のはね橋也川向ニ広瀬村アリ」（小松近郷巡見道之記）の記録があり、幕末の文久3年（1863）に始めて架橋されています。それ以前には渡し場があったことが知られています。明治29年（1896）の大洪水で流され、本写真の橋は明治30年代に建て替えられたものです。昭和9年（1934）の大洪水でも完全に破壊され、吊り橋として再架橋されて、現在同地に橋脚（主塔）が残っています。

黄門橋

寛政4年（1792）の矢田四如軒の『吉野邸領十景巡見紀行』は、南北朝時代の吉野祇陀寺開基大智禪師が選した吉野十景を探して美

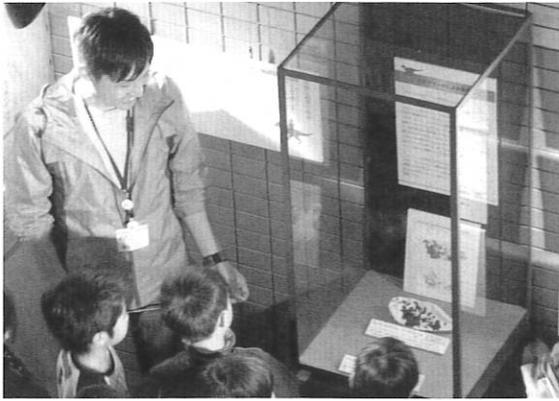
（文責 金山）

ミニ企画展
「白山の竜」アルバロフオサウルス

25年3月23日(土)

～4月21日(日)

白山市立博物館ロビーにおいてミニ企画展『白山の竜』アルバロフオサウルスを開催しました。桑島化石壁で発見された新属新種の恐竜「アルバロフオサウルス」ヤマガチオロウム」のタイプ標本(複製)と頭骨の復元模型を展示。復元模型は、立体的にプリントする「3Dプリンタ」を使って再現したものです。



園田さんの展示解説

期間中4月4日(木)の松任公民館の団体見学時と4月21日(日)

に、白山市白峰化石センター調査員 園田さんに桑島化石壁から発見された化石と展示の解説をしていただきました。

文化施設スタンプラリー

25年4月26日(金)

～5月6日(月・祝)

「熱狂の日」音楽祭2013 in 白山」協賛事業として、白山市立博物館、千代女の里俳句館、松任中川一政記念美術館の3館を巡るスタンプラリーを実施しました。達成者には、3館のオリジナルポストカードをプレゼントしました。期間中、関連イベントとして白



文化施設スタンプラリー台紙

山市立博物館では、5月2日・3

日に「蓄音器によるレコード鑑賞会」、松任ふるさと館で、5月2日に「ギター演奏会」、千代女の里俳句館では、同じく5月2日に「ハーブ演奏会」が行われました。

ナイトミュージアム

25年7月26日(金)

ナイトミュージアムとして「夏の夜の夢」レコード鑑賞会を開催しました。

第1部は、なつかしい李香蘭や灰田勝彦などの戦前戦後の歌謡曲。第2部はベンチャーズやビリーヴオン、日野てる子などハワイアンやサーフィンソングなど夏らしい音楽を、そして第3部は、メンドルスゾーンの「真夏の夜の夢」などクラシックを特集して鑑賞いただきました。金沢工業大学のポピュラーミュージックコレクションの協力

をいただきました。当日は、博物館の外観をライトアップし、館内

ではLEDキャンドルを配置して幻想的な雰囲気を作りました。白山市立博物館「博遊会」協賛で臨時カフェも開きました。



ナイトミュージアム

講座「前田利長」

25年7月21日(日)・8月11日(日)

9月15日(日)・9月29日(日)

前田利長は加賀藩2代藩主として有名な武将ですが、天正11年(1583)、松任四万石を拝領した白山市ゆかりの人物であることはあまり知られていません。

平成26年の利長没後400年を前に白山市立博物館友の会「博遊会」と白山市立博物館の共催で講座を実施しました。

金沢学院大学教授 見瀬和雄さんを講師として、第1回「松任四万石の城主利長」、第2回「関ヶ原の戦いと利長」、第3回「加賀藩二代藩主利長」、第4回「加賀藩を背負い病苦に立ち向かう利長」の4回にわたり開催しました。

史料を解説していただきながらの講演は、わかり易く、たいへん好評でした。



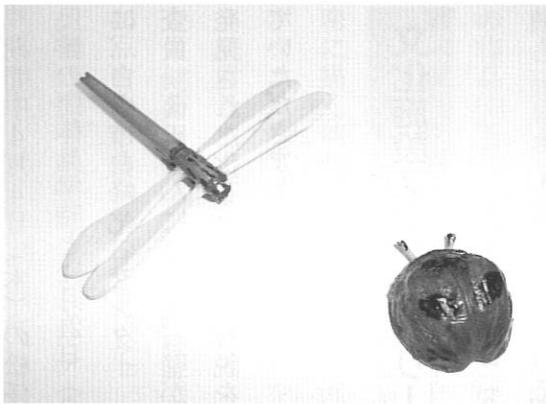
講座「前田利長」で講演する見瀬教授

夏休み工作教室

25年8月7日(水)

小学校3年生から6年生を対象に、恒例の「夏休み工作教室」を開催しました。講師は、「白山市まちの先生」松田哲章さんです。

参加した子どもたちは、木で「トンボ」とクルミの殻で「てんとう虫」のブローチ、草で「バッタ」も作りました。さらに羽が紙で出来た紙製竹とんぼもつくり、飛ばして遊んでいました。



工作教室で作ったトンボ・てんとう虫など

伝統工芸教室 型染め体験

25年11月16日(土)

かつて松任は、藍染めが盛んで、松任の主要産業の一つでした。今回、松任染めでも使われた「型染め」を模擬体験しました。講師に染色作家の北村紗希さんをお迎えし、ハンカチまたはエコバッグに型紙をあて、ブラシを使って染料で着色していただきました。受講した皆さんは、思い思いのデザインで作品を仕上げていました。

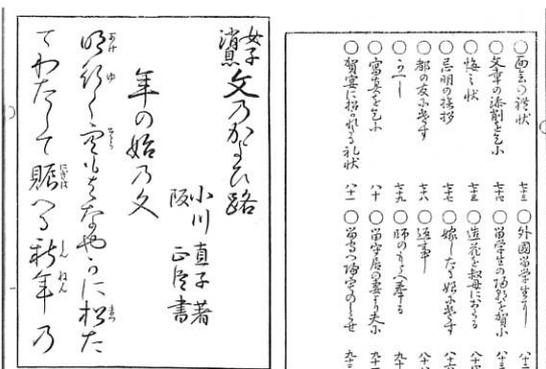


体験風景

古文書講座 初級

26年1月11日(土)・1月25日(土)
2月8日(土)

はじめて、古文書・くずし字に取り組む方を対象に講座を開催しました。白山市立博物館学芸員が講師となり、第1回は、大正時代の女性用の手紙文例集から。第2回は、遺言状を題材に、江戸時代の町人の相続について。第3回は、幕末、外国人が松任を通行した際の記録などを紹介し、地域の歴史の一端にふれてもらいました。



古文書講座初級で使用した小川直子著『女子消息文のかよい路』

古文書講座 中級

26年2月22日(土)・3月8日(土)

古文書・くずし字が読める方を対象に開催しました。例年、松任郷土研究会会員を講師として、今年も真山武志さんに担当していただきました。松任町奉行再設置の要望についての取り組みや、松任町でおきた変死事件を対処した町役人等への下賜金の記録などを紹介していただきました。



古文書講座中級

刀の手入れ教室

26年3月15日(土)

実物の刀剣を使用して、刀の手入れの方法を学びました。講師は日本美術刀剣保存協会 刀剣等指導員で同協会石川県支部理事の小浦宗五郎さんです。はじめに小浦さんに実演していただいた後、参加者それぞれが、実際に刀を手にとり、手入れ方法を体験しました。



刀を解説する小浦さんと参加者

日本刀鍛錬場見学会

26年3月22日(土)

白山市立博物館からバスに乗り、1時間30分、福井県 越前町の森國清廣刀匠の日本刀鍛錬場を見学しました。森國刀匠は、博物館に展示コーナーが設置されている人間国宝 故隅谷正峯師の孫弟子にあたります。鍛錬場の迫力に、驚きながらも、参加者の皆さんは、熱心に質問していました。

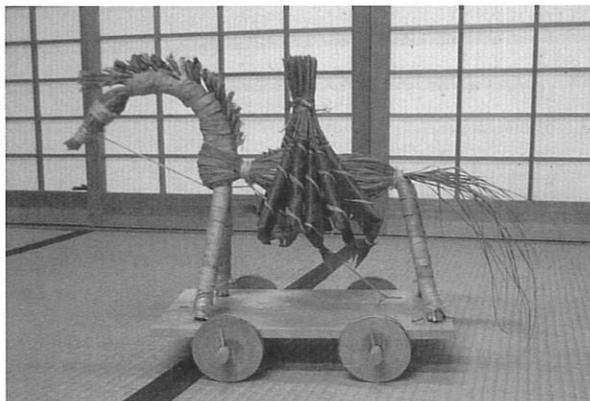


森國刀匠と鍛錬場を見学する参加者

無形民俗文化財映像記録上映会

25年5月11日(土)・7月6日(土)
9月15日(土)・10月20日(土)
26年1月18日(土)

平成24年度から白山市内の民俗行事等を記録した映像を紹介する上映会を開催しています。引き続き平成25年度は、「瀬波スゲ馬まつり」、「横江の虫送り」、「三ツ屋野町の獅子舞」、「辰巳町の獅子舞」、「竹松町の伝統行事」の5回にわたり上映しました。



瀬波スゲ馬

企画展 桜伝説

—花をめぐる—

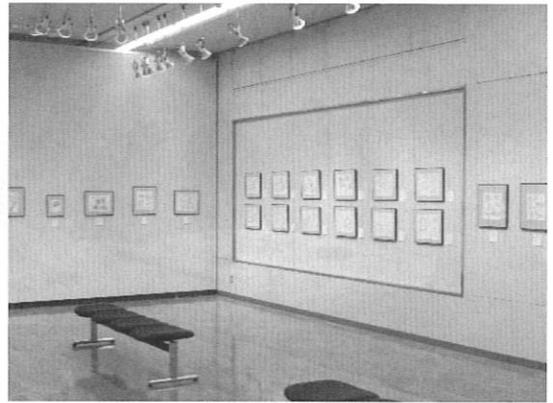
25年4月6日(土)

～5月12日(日)

平成25年4月1日、旧鶴来博物館と旧松任博物館を統合し、名称を白山市立博物館としてスタートいたしました。統合後初めての企画展として「桜伝説—花をめぐる—」を開催しました。旧鶴来博物館で春の恒例展示であった「長基コレクション」の桜図の展示と旧松任博物館所蔵の桜細密画の展示をあわせ「さくら図」をテーマとした企画展です。「長基コレクション」は北陸の桜博士とも呼ばれた長基健治が収集した桜関連のコレクションです。このなかから、江



長基健治



企画展「桜伝説」展示風景

戸中期、「桜画(さくらが)」と言われた「桜花」のみを画面上に描いた日本画で著名な三熊派の花顛・三熊思孝、広瀬花隠、織田瑟瑟の作品や近代の植物学者 三好学篇「桜花図譜」等24点を展示しました。さらに植物の姿を正確で細密に描く植物図鑑のための絵画

ボタニカルアート(植物画)を描き続けるボタニカルアーティスト 金栄健介さんの「さくら細密画」46点をあわせて展示しました。

春、桜の季節に合わせたテーマ展示として好評を得ました。

企画展 小川直子

—女子教育に捧げた明治の教育者—

25年6月15日(土)

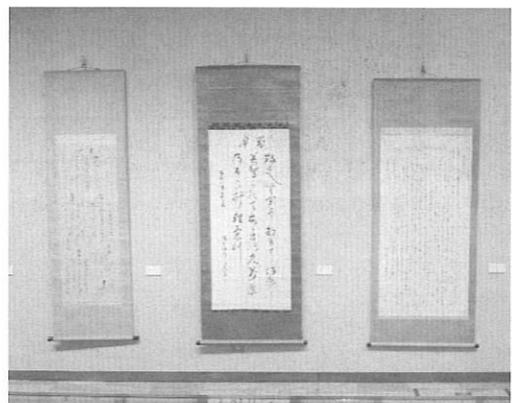
～8月18日(日)

鶴来ゆかりの教育者 小川直子の生涯をたどる展覧会を開催しました。小川直子は、明治天皇の皇女常宮、周宮の御用掛を務めるなど明治期に活躍した教育者、歌人で、鶴来出身の勤王の志士 小川幸三の妻でもありました。

直子は、加賀(金沢)藩土河島良左衛門と三子の娘として天保11年(1840)金沢に生まれ、名は昌子といいました。元治元年(1864)小川幸三に嫁ぎ1年あまりで、夫幸三は加賀藩勤王家弾圧の犠牲となり、以後夫の名誉



小川直子

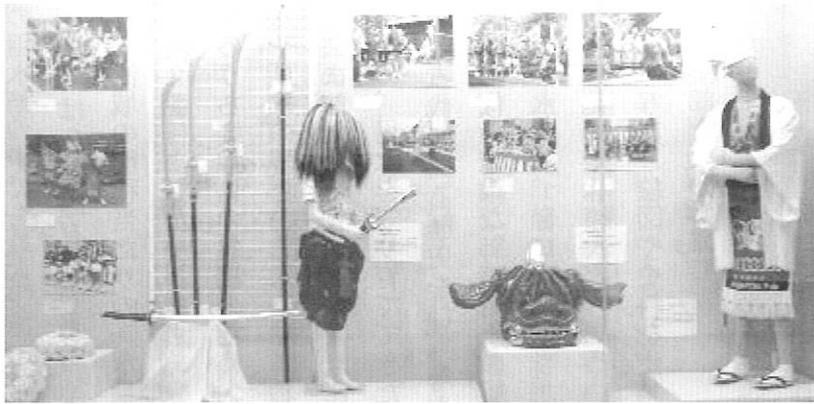


小川直子筆「対月」ほか

回復と家名再興に尽くしました。

明治維新後は教育者を志して金沢女子師範学校、青森女子師範学校などを経て、高輪御殿に進み、明治天皇皇女らの御用掛を務めることとなります。これを機に直子に改名しました。大正8年(1919)80歳で逝去するまで多くの著作を残しました。

白山市指定文化財「我がせの君につけて・詠草」をはじめ、直子がそれぞれの学校に勤務したときの辞令や直子宛の書簡、皇室より下賜品等を展示し、教育に捧げた生涯を紹介しました。



「松任若宮の獅子舞」のコーナー

企画展 白山市の獅子舞
—半兵衛流 剣士が乱舞する—

25年9月7日(土)

～10月14日(月・祝)

白山市内の獅子舞保存団体等で組織する白山市獅子舞協議会の協力を得て、白山市の獅子舞を紹介する企画展を開催しました。

金沢を中心とする獅子舞は、獅

子を退治する獅子殺しが特徴で、白山市内の獅子舞も、金沢の町田半兵衛を祖とする半兵衛流の獅子舞を主体として、白峰を除く広い範囲で行われています。

今回、白山市文化遺産活用地域活性化委員会編『白山市の獅子舞調査報告書』の刊行記念として、『調査事業及び獅子舞の映像記録事業の成果をもとに展示しました。』

半兵衛流以前の獅子舞から、市内の代表的な獅子舞を「松任若宮の獅子舞」、「ほうらい祭りの獅子舞」、「白山ろくの獅子舞」、「美川の獅子舞」などのテーマごとに紹介しました。

期間中、関連事業として、9月8日(日)に、北陸大学教授小林忠雄さんによるフロアトーク「白山市の獅子舞芸能」とワークショップ「白山市の獅子舞棒振り体験」を開催し、9月14日(土)には、無形民俗文化財映像記録上映会「三ツ屋野町の獅子舞」も行いました。

祝 東京五輪決定
聖火トーチ特別陳列

25年9月8日(日)

～9月29日(日)

平成25年9月7日、2020年のオリンピックの開催都市が、東京に決定されました。昭和39年(1964)以来の第2回目の日本での夏季開催です。

白山市立博物館では当時の聖火リレーのトーチと、アルバムなどの関連資料が保存されており、早速、一般公開することにしました。聖火リレーの正走者の方に連絡したところ、ユニフォームや参加



昭和39年 東京オリンピックでの聖火リレー

バッチなどの貴重な資料のご提供をいただき併せて展示いたしました。

聖火隊は正走者1名副走者2名のほか一般・高校生・中学生など計23名で構成されました。正走者は当時の石川郡内各町村と松任農高から1名ずつ選ばれ、9月30日15時10分頃から16時25分頃まで8号線(旧国道)を金沢方面に向けて順に継走しています。

企画展 手取川七ヶ用水展

25年10月26日(土)

～12月15日(日)

合口工事竣工から百十年目を迎えた手取川七ヶ用水について、その歴史や仕組みを紹介する展覧会を開催しました。

手取川七ヶ用水は、わが国治水技術の確立期、明治36年(1903)5月に竣工しています。左岸の宮竹用水を加えた最大流量である一秒当たり62.3m³は国内

の用水路の中でも最大規模です。

上流は我が国有数の豪雪地帯で、流域の面積当たりの降水量は国内2番目にもかかわらず一級河川のうち3番目の急流のため大洪水や夏季の著しい乏水に見舞われて来ました。祖先がどのように水を治め、用水を守り育ててきたのか。古代に遡る歴史をひも解き、藩政時代の精緻な御郡用水の組織や、番水制度、合口工事に当たった枝権兵衛や林頼次郎らについて、地図や写真・絵図や史料を使って、その一部を紹介しました。



明治35年5月 手取川八箇用水通水式
手取川七ヶ用水土地改良区提供

企画展 かわってきた人々の暮らし
—古い道具と昔のくらし—

25年1月11日(土)
～2月11日(火・祝)

恒例の小学校3年生を対象とした社会科学習「むかしのくらし」の学習支援のための展示です。

むかし使われていた道具を、用途ごとに、(1)「洗濯」、(2)「あかり」、(3)「料理する」、(4)「すずしくする」、(5)「あたたかくする」、(6)「音をきく」、(7)「その他」に分けて紹介しました。学校の見学时には、児童が自ら記録し、学習する時間を確保するため、解説はスライドを使用し、道具の名称と簡単な使用法等にとどめました。



古い道具(唐箕)の体験

昨年度見学に来られた学校からは体験の要望が多かったため、行灯、ランプなどの明るさの比較や唐箕体験等に加え、体験を重視する構成としました。

「てつどうの広場」
リニューアル

26年3月29日(土)
3月30日(日)

白山市立博物館の一階ロビー「てつどうの広場」は、小さなお子様をはじめ、たくさんの方から好評を得ています。平成17年に設置されてから、6年余りが経過したので、新幹線開業に向け、平成24年4月から1年をかけて改修しました。「はくさん模型鉄道倶楽部」の皆さんに依頼して、改修が進められた展示は、このほど完成し、このたび3月29日(土)、リニューアルオープンいたしました。内容は、基本的に日本全国の新幹線と特急列車を中心に選定され、模型車両、約250両が設置されています。



リニューアルした「てつどうの広場」
写真提供 はくさん模型鉄道倶楽部

ます。お披露目となった3月29日・30日の2日間には、子どもたち、約300名の来館者がありました。北陸新幹線開業まで約1年、4月以降の模型運行は、「はくさん模型鉄道倶楽部」の皆さんにより毎月 第3日曜日、家庭の日に開催していく予定です。当日の運行時間は、午前10時から午後3時まで。「てつどうの広場」は見学無料です。ご来館をお待ちしています。

企画展 昭和のしやしん展
「昭和の学校」

26年3月8日(土)

5月6日(火・祝)

博物館では前年の公民館に続き昭和時代の小中学校の、校舎の写真を集めて展示しました。

昭和時代の学校の多くは、今日統合や建て替え、廃止によって残っていません。

しかし、そこにはたくさんの忘れられない思い出が満ちています。



レトロな笠間小学校校舎

松任・美川・鶴来地域

松任35校・美川6校・鶴来12校の小中学校の写真を集めました。

大正末年に開校した松任小学校のコンクリート校舎や、組合立の鶴来中学校、木造の美しい美川小学校、竣工直後の旧朝日小学校の校舎など54枚の写真を集めました。

昭和30年前後の市町村合併によって各地区にあった小学校は、戦前に多くが建て替えられます。統合が避けられなくなり、昭和40年頃から、松任と鶴来地域で小学



竣工間近の(旧)朝日小学校

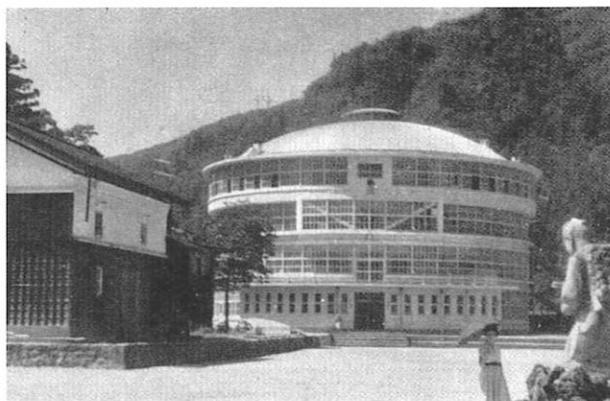
校の統合が進められます。消えて行く学校の一方で、昭和50年代以降の人口の増加・大規模団地の造成によって新たな鉄筋コンクリート造りの小学校・中学校が創立されました。これらの校舎も現在は老朽化や地震対策などで新たに建て替えられています。

河内・吉野谷・鳥越・尾口・白峰地域

白山麓には、昭和30年頃には本校分校を含め小学校が49校、中学校が5校ありました。統合や廃止、ダム建設などの結果、現在小学校4校、中学校2校となっています。分校4校を除く50校と2ヶ所の寄宿舎の写真を集めました。

当時、白山麓は養蚕・炭焼きなどの夏季の出作りが盛んで、山中に入る子ども達と共に夏季分校を設置、また交通が途絶する冬には冬季分校を設置していました。

多くの学校の資料は、今日では写真を集めることも困難となりつつあります。



桑島小学校円筒校舎



鳥越小学校左礫分校

平成26年度 白山市の博物館・美術館 展示・行事予定

事業計画	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
白山市立博物館	企画展 「昭和の写真展」 —昭和の学校—		企画展「手取川発電物語」				企画展 「金子館村をめぐる人々」 —加賀の文人たち—			博学連携展示 「くらしと道具の うつりかわり」	特別展「かがやきの北陸へ」 —北陸新幹線と北陸本線—	
千代女の里 俳句館	石川俳人 月江庵展	俳画の 愉しみ展 立夏展示替	千代女茶会	写真と 俳句展		立秋展示替	西のぼる俳画展	俳句協会 会員展 立冬展示替		千代女と 一茶ふるさと展 新春展示替	俳人展 立春展示替	
松任中川一政 記念美術館	春季テーマ展 「中川一政の畫巻 卒寿をこえて」		夏季テーマ展 「中川一政の向日葵」			秋季テーマ展 「中川一政 書の世界」			白山市合併10周年記念 「松任中川一政記念美術館 館蔵名品展」			
	第20回花を描こう絵画展 美術館講座 6/7日、8/2日、10/4日、12/6日、2/7日 親子ワークショップ 7/19日、8/9日											
松任 ふるさと館	熱狂の日茶会 ライトアップ	落語鑑賞会	庭園ライトアップ 七夕茶会 「七夕夜灯」			庭園ライトアップ 月見茶会 「月見夜灯」		市民茶会				雪見茶会
石川ルーツ 交流館	篠笛 コンサート		白山市 巡回美術展	山中節を 楽しむ会	親子 絵画教室	ライブ コンサート	收藏洋画展		今昔写真展			ミニ展
呉竹文庫	近代文学全集展		企画展（内容未定）		企画展（内容未定）		企画展（内容未定）		企画展（内容未定）			
	毎月、第1日曜日 あぐら茶会（1月、10月は休み）											
鳥越一向一揆 歴史館	鳥越城写真展 鳥越城セミナー	鳥越城写真展 鳥越城セミナー	鳥越城写真展 鳥越城セミナー	江沼郡一向一揆の武将の末裔								

※詳細については各館までお問い合わせください。

● イベント 案内 ●

白山市立博物館

問い合わせ TEL:076-275-8922

企画展 手取川発電物語

白山市内の水力発電所などの歴史や役割などを紹介します。

期間 6月14日(土) ~ 8月31日(日)

場所 白山市立博物館

入館料 大人:200円
高校生:100円
中学生以下無料

(20名以上の団体)
大人:100円
高校生:50円



歴史フォーラム 「前田利長と松任城」

日時 6月29日(日) 14:00~16:45

場所 サンライフ松任

無料

内容 第1部 基調講演
演題 「前田利長の一生」
講師 瀬戸 薫さん(富山高等専門学校教授)

第2部 パネルディスカッション
テーマ 「大名・利長の足跡をさぐる」
コーディネーター
東四柳 史明さん(金沢学院大学文学部特任教授)

編集後記

今号は、白山市立博物館の平成25年度展示・普及事業等の紹介が主な内容となりました。博物館等市内文化施設の活動に興味をもって、参加いただけるように発信していきたいと思ひます。(M)